

【令和四年度人権に関する作品】

小学生四年生以上の部 最優秀賞

## 私のお姉ちゃん

延岡市立東小学校

五年

岡本

幸空

私のお姉ちゃんには、障がいがあります。障がいには色々な種類があります。お姉ちゃんの場合は、知的障がいと自閉症です。知的障がいは、知能が低く、言葉の発達がおそいなどの特ちょうがあります。自閉症は、こだわりが強く、相手の言葉が理解できなかつたり、同時にいくつものことを言われたりすると、分からなくなる場合があります。だから、私がお姉ちゃんにお話するときは、お姉ちゃんが私の言うことを理解できているのか、少し不安になることがあります。だけど私は、お姉ちゃんと言葉で伝わらなくても、心で通じ合えたらいいと思います。お姉ちゃんとお話をしています。

お姉ちゃんは、時々、家で心が不安定になり暴れてしまうことがあります。また、時には、満面の笑顔で笑っているときもあります。私達家族は、やっぱりお姉ちゃんにもニコニコ笑っていてほしいなと思います。でも、お姉ちゃんも暴れてくたくたく暴れてしまうわけではないし、人にめいわくをかけたわけではない、ということを思うと、かわいそうだなと思います、むねが苦しくなることがあります。私はそんなお姉ちゃんや、障がいのある人達をやさしい気持ちで受け止められたらなと思っています。

私は、家族でお買い物をするのが大好きで、お姉ちゃんもお買い物が好きなので、よくいっしょにお買い物へ行きます。スーパーで私達が楽しくお買い物をする中、知らない子どもや大人の人達が、私達のことをジロジロ見ってきます。私は、以前から「何で、ジロジロ見てくるのだろう。」と不思議でした。そして、私のとりには、ジロジロ見られているということを知らないお姉ちゃんがいました。お姉ちゃんは、まわりは気にせず、お買い物を楽しんでいました。お姉ちゃんのことを知らない人達にとっては、お姉ちゃんへの行動や表情が不思議でジロジロ見ているのだと思います。私は、自分の大切なお姉ちゃんをジロジロ見ないでといういら立ちと、はずかしさを感じます。なぜ、はずかしさがあるかというと、時々、私がお姉ちゃんという時、友達と会う時があります。私は、お姉ちゃんに障がいがあるということを親しい友達にしか言っています。だから、まだ私のお姉ちゃんのことを知らない人達にとっては、「だれだろう。」「変な人だなあ。」と思っているのではないか、そして、それが私のお姉ちゃんだと知られるのがはずかしくて、お姉ちゃんから、はなれなくなってしまう時があります。そして、私は、そんな自分がかっかりしてしまいます。でも、これから、もっとたくさんの方達にお姉ちゃん、障がいを知ってもらいたいと思います。そして、私もお姉ちゃんが大好きだから、堂々と、「妹です」と言えたいと思います。

私のしょう来のゆめは、障がいのある人が学び支えん学校の先生になることです。小さいころから、お姉ちゃんを支えん学校の先生達を見てきて、色々な障がいの子どもを、楽しそうに支えんしていることがすごいと思います、支えん学校の先生になりたいと思います。お姉ちゃんみたいな人達をサポートしながら、ステキな先生になりたいです。そのためにも、お姉ちゃんのお世話を、これからがんばっていききたいです。そして、みんなに障がいのある人達のことを知ってもらって、みんなが笑顔で幸せになってほしいです。

【令和四年度人権に関する作品】

小学生四年生以上の部 優秀賞

## 誰もがみな平等な世の中に

都城市立沖水小学校 六年 川畑 壮亮  
かわはた せいりょう

みなさんは、「障がい者」について考えたことはありますか。世の中には、さまざまな障がいがある生活をしている人たちがたくさんいます。

僕は、今年の夏休みにデパートで行われていた人権についてのイベントに、家族で参加してきました。そのイベントでは、僕たちが身近でよく目にする障がい者マークについての説明や、体の不自由な人にとって欠かせない車いす体験や、目が見えない人の支えとなってくれる盲導犬との体験歩行をしました。実際に体験してみて、僕が思っている以上に大変なものでした。

車いす体験では、実際に乗ったり、押したりしてみました。思うように真っ直ぐ進まず、動かすことも大変でした。次に、母を車いすに乗せて押してみました。少しの段差や、車いすを止める時の力の入れ方など、とても難しかったです。この経験を通して今まで以上に周りに目を向けて行動することが大切だと感じました。

僕は、そのイベントである家族に出会いました。知的障がいのある、僕より一つ上の男の子でした。僕が、「こんにちは」と話しかけると、相手は、何も返事をしてくれませんでした。そこにいた男の子のお母さんが、「うちの子は、障がいがあるものであつがうまくできなくてごめんね。」と言われました。それを聞いた母が、「なぜ、謝るのですか。何も悪いことをしていませんよね。」と言った一言に相手のお母さんは、「あつがとつづいていきます。」と言っていました。僕も母のように、すべてそんな言葉が言えるような人になりたいと思いました。

その後、そのお母さんから、家での生活や大変さなど、たくさん話を聞かせてもらいました。その話で、僕が今でも思い出すと心がモヤモヤとすることがありました。

「障がいという言葉を使うだけで、息子が人と違う行動や言動があってもすべてに理解してもらえないから。」という言葉聞いたことです。周りの行動や言動が相手にそんな思いをさせているのだと思うと、モヤモヤが更に強くなりました。

みなさんは障がいのある方に対してどう接していますか。人それぞれ思いや感情、そして行動もさまざまだと思います。でも、その一人一人の感情や行動を間違ってしまうと、大変な問題になると思います。僕は、どんな障がいのある人も障がいのない人もみんな同じだと思っています。僕も少し前までは、自分には関係ない。自分さえよければいい。そう思っていました。しかし、今回の経験を通して、考え方が変わりました。僕にも、できることがたくさんある。もっと人の役に立つことがしたい。そう思うようになりました。考え方が変わってからは、今まで見えていなかった周りの目を向けられるようになりました。そして、困っている人を見かけたら、「大丈夫ですか。何かお手伝いできることは、ありませんか。」と声をかけられるようになりました。実際に、相手の方から、「あつがとつ。本当に助かりました。」という言葉を書いていただけるとてもうれしい気持ちになりました。常に相手の気持ちになって考え、行動することで、誰もがみな安心して生活できるのではないのでしょうか。少しでも誰かのためになることがあれば、これからも小さなことから少しずつ自分のできることをしたいと思います。

人権を守ることは、一人ではできません。一人一人の意識を変えることで、小さな輪が少しずつ大きくなり、やがて大きな輪になっていくと思います。そのために、今日からできる五つのことを、これからいろいろな人たちに広めていきたいと考えます。一、人を傷つけていないか振り返る。二、自分らしく生きるためにどうすればいいか考える。三、人権に関するイベントに参加する。四、文化のちがう人たちと積極的に話をして、文化のちがいを知る。五、世界中でどのような人権問題が起きているか調べてみる。この五つのことを、ポスターで分かりやすく作成し、けい示していきたいと考えます。

僕の好きな言葉の中に、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉があります。みんなで助け合い楽しい毎日が過ごせますように。そして、誰もがみな平等な世の中になりますように。

## 大好きな叔母

三股町立三股小学校 五年 上原 咲愛

私の叔母は、高次脳機能障害と左同名半もつの二つの障がいがあります。高次脳機能障害には、色々なようじょうがあつて、人によってちがいます。叔母の場合は、なくし物が多かったり、道が覚えられなかったり、地図がよめないというようじょうがあります。また、つかれやすく、ストレスがかかるとたおれてしまうこともあるそうです。昔より、複雑な事に時間がかかるようになりました。左同名半もつは、両目の左側が見えないというようじょうです。左半分が見えなくてあぶないため、車や自転車に乗る事ができなくなりましたそうです。

叔母は、よくなくしてしまう物があります。リハビリがきっかけで始めたしゅ味のテニスのボールです。置き場所を決めて、なくならないように工夫していたのですが、先日私が会いに行った時、いつも置いてあるはずの場所にテニスボールがなくて、困っていました。その時は、祖父母や母、家族全員で探しました。左半分が見えない叔母にとって探すのは大変だと思います。そのため、少しだけ役に立つ事ができたと思って、とてもうれしかったです。

叔母は、左半分が見えないので、人や物にぶつかってしまったたりしてあぶないので、母は叔母といっしょにいる時は、見えない左側を歩くようにしているそうです。これを聞いて、私は、叔母が人や物にぶつからないようにそっと左目のかわりをしていてやさしいなと思いました。

また、叔母はご飯を食べていると、お皿の左側にあるご飯が見えず、残したままにしまいました。そんな時、祖母や母は、笑いながら叔母に「ツッコミ」を入れます。叔母の気持ちも考えて、その場のふんい気も悲しくならないように楽しくしようとしていて、母や祖母に感心しました。私も母や祖母のように、叔母のことだけでなく、みんなの事を考えて行動したいです。

叔母はそんな障がいがあっても仕事をしています。荷物のあて名を書いたり、たのまれた事をやる事のお仕事だそうです。簡単な事だけれど、しっかりと仕事をしているのはすごい事だと思います。

もしも私が事故などで障がいがある生活になったら、悲しくて外に出たくなってしまうと思います。けれども叔母は、障がいを乗り越えて楽しくくらししている事は、すごい事だと思います。

叔母はたのまれたら、ことわれない性格で任される仕事がふえていった事で、気づかない間にストレスがたまって、たおれてしまったそうです。そのため、一年けい約がこう新されず、仕事をやめることになってしまったそうです。そんな叔母が新しい会社で働いているのは、会社で働く人の四・三五人に一人は障がい者をやとつことをぎむ付ける「障害者」ようじょうせい度「のおかけだそうです。「障害者」ようじょうせい度「は、障がい者などが希望や能力、適正を十分に生かし、障がいの持ちように応じて活躍する事が普通の社会、障がい者と共に働くのが当たり前の社会を目指すために、決められた国のせい度です。

また、海の中道海浜公園へ遊びに行った時、入り口で叔母が障害者手帳を見せると、叔母と付きそいの母の入園料、さらには駐車料金が無料になりました。そして叔母と母が借りた二人乗り自転車も半がくになりました。

私はこういったせい度があることにおどろきました。障がいのある人が過こしやすい社会になるようなルールがあるのだと、初めて知りました。

叔母は大人になって、脳出血が原因でこの障がいがあるようになりました。もし事故や病気で、ある日とつ然これまでふつうにできていたことができなくなるのは、とても怖いことです。私には想像できないくらい、たくさんの事が不安で心配になります。しかしそれは誰にでも起こりうることです。障がいがあってもなくても叔母は叔母です。叔母は私が小さい時からいつも私のやりたい遊びに最後まで付き合ってくれる、おだやかでやさしい人です。私は、そんな叔母が大好きです。家族やまわりとの関係は変わらないし、困っていたら助けるのは、障がいがあってもなくても一緒です。しかし国や家族、まわりの人が、必要な手助けをする事は大切だと思います。

叔母の障がいは、ほとんどの人が気付かないで、私もいつも叔母に対して障がいがあることをわすれてしまします。でも叔母は、「それでいい、特別あつかいしなくていいんだよ。」と言ってくれます。私も母のように、障がいの有無に関わらず、まわりの気持ちやじょうきょうを考えながら、みんなが楽しく行動できる人間でいたいです。

【令和四年度人権に関する作品】

小学生四年生以上の部 優秀賞

## 弟と家族の存在

宮崎市立穂小学校

四年

迫間 さこま

穂歌 ほのか

私の家は六人家族です。お父さんとお母さんと私、弟が二人います。私は、生まれつき心ぞうの持病があって、赤ちゃんの時から幼稚園までに四回手じゅつをうけました。私には年子の弟、だいちゃんがいます。お母さんは、私が最重症の心ぞう病で生まれてきた時、周りの人から次も心ぞう病の赤ちゃんが生まれてくる可能性が高いと言われたそうです。だけとお母さんは、私の兄弟を授かりたいと強く思ったと私に話をしてくれました。

だいちゃんは、私が一才になった時に生まれてきました。とても大きくてよく食べて、よく笑ってよく眠る赤ちゃんだったそうです。そんなだいちゃんは、赤ちゃんのころから私を守ってくれています。私がつきはじめてから現在まで、ねっでも絶対にやり返さなかったそうです。物心がつきはじめてから現在まで、だいちゃんは私には絶対に手をださなかったと聞いた時、私は思いました。私が三才のころ手じゅつをうけた時に、だいちゃんはお父さんと福岡までお見まいに来てくれました。いつも一緒にすごしてきただいちゃんと初めてはなればなれになって、私は淋しくて病室のベッドで涙したのです。お母さんももらい泣きをするくらい私は泣いたそうです。だいちゃんは赤ちゃんの時から、まるで私の病気を分かってくれているかのようでした。物心がつきはじめて時には、お父さんやお母さんから私の病気を聞かされて、だいちゃんは小さいころから理解してくれていたのです。あと二人の弟、りょうちゃんとえいちゃんも私の病気を分かってくれています。私は、家族みんなから守ってもらえているのだと、病気でいたい思いをする時や、したい事も自由にできなくていやに思う時もあるけど、この家族に生まれてきてよかったとかんしゃしています。お母さんから、「ほのちゃんが心ぞうの薬を毎日飲んでいいるから、だいちゃんたちも薬をいやらずに飲んでくれたよ。」と言われたことがあります。弟たちは、心ぞうの薬が特別ないい物と思っていたそうです。えいちゃんは今でも、風邪薬を飲む時は、「ほのちゃんといっしょ。」と言ってよろこんで飲んでいきます。私は小さいころから家族に心配ばかりかけて何も家族の役にたてていないなど思うことがあったので、お母さんから薬の話や私が心ぞうの病気だから、弟たちもお父さんお母さんも人として一番大切なことを考えて日々すごすことができていると聞いた時に、私も役にたてているのだと、なんだかとてもうれしい気持ちになりました。

私にとって家族は何にも代えられない大切な存在です。一番の理解者でとても心強い味方です。私も家族から同じ事を言ってもらえました。私は家族との長いようで短い一緒にすごせる時間を大切にすごします。